心が健康でなければ、時代に順応できない。

木谷電器株式会社（大阪府枚方市）

端子と呼ばれる金属部品、生産ラインを自動化する製造装置、太陽光発電用のコネクタやケーブル…。自分たちにできることは何か。常に可能性を模索してきたという木谷健一郎社長にお話を伺いました。

木谷電器株式会社は枚方（大阪）、滋賀のほか、東莞（中国）、ラオスに工場を構え、常に「自分たちの技術が活きる場」を求め続けてきた、ものづくり企業です。

「人から『木谷電器は〝何屋さん〟ですか』と尋ねられると、いつも答えに詰まってしまいます。していることを一つ一つ挙げていくと話が長くなりますし、『総合電子部品メーカーです』と称したりもしますが、私自身がどうもしっくりこないのです（笑）」

原点といえるのは60年前の創業時から製造する、端子と呼ばれる金属部品でした。

「一番分かりやすいのは、電源コードの先から飛び出した2本の金具部分です。端子を製造する企業は数多くありますが、この電源コード用端子に限れば、現在国内には当社しかありません。もともと電源コード用端子を製造する企業自体が少なく、多いときでも5社ほどでした。それが、最終的に製品をつくる家電メーカーなどが生産拠点を海外へ移し、電源コードも現地調達されるようになったこともあり、一社また一社と事業撤退していったのです」

メイドインジャパンの電源コードの総量が減少しているとはいえ、端子の国内生産の〝シェアナンバーワン企業〟である木谷電器。国内や海外規格に準拠した端子はもちろん、顧客の仕様に合わせて自社で設計・試作を行ない、約200種類にもおよぶ様々な端子を製造しています。

「ニッチな市場とはいえ、ナンバーワン企業であることは素直に嬉しく思います。それが多少なりとも、真摯にものづくりに向き合ってくれる従業員たちの、誇りや糧になるからです。また、お客さまから『木谷さんの端子は不良が少ないから、歩留まり（期待される生産量に対して実際に得られた生産量の割合）が良い』などとお褒めの言葉をいただくと、今まで踏ん張ってきた甲斐があったと感じます。ただ、私はナンバーワンであること以上に、そこへ至る過程で得た〝技術の可能性〟に価値を見い出しています」

例えば過去に木谷電器では、電源コード用端子のシェアを拡大するために、顧客である電源コードメーカーの生産効率を向上させる装置や自動機を開発するなど、単なる部品メーカーの枠を超えたものづくりにも取り組んできました。4年前には、約2年かけて開発した自社ブランドの「災害用ソーラー浄水機（商品名：SOLAM-ZU）」の商品化も実現しています。

電源コード用端子（導電刃100V）

「近年でいえば、ロボットや画像処理技術を活用した自動検品装置も開発しました。ほかにも、太陽光関係のものづくりは20年以上前から取り組んでいるのですが、きっかけは当社の圧着技術*1を評価してくださった太陽光発電の設備メーカーさまからの『木谷さんならできるのでは』というひと言でした。コネクタ（電線と電線、または電線と電気器具とを接続するための部品）に使用する圧着パーツから始まって、コネクタ自体をつくるようになって。それからケーブルやジャンクションボックス（一枚一枚の太陽光パネルをつなげる部材）を製造するなど、ものづくりの幅はどんどん広がっています」

優れた技術は〝物〟だけでなく〝可能性〟を生み出してくれます。自ら〝○○屋だ〟と枠を限定していたら、現在の木谷電器は存在していなかったかもしれません。

「健康経営の目的は、従業員が健康になることで、それを会社としてプラスに反映させることですよね。可能性の種や芽に気づける環境、柔軟な発想が生まれやすい環境、時代の変化に順応できる環境、それらも私が思う〝働きやすい環境〟の基準です。それにはフィジカルだけでなくメンタルの健康が大事になりますが、気をつけているのは『働きやすさイコールぬるま湯ではない』ということ。働く楽しさと厳しさのバランスを図りながら、当社なりの環境づくりをしていきたいと考えています。また今後は、いわゆる働き方改革よりもDXやAIの進化に伴う仕事の変化のほうが労働環境に影響してくるかも知れません。『人間はもっとクリエイティブな仕事をしなさい』『明日からはもっとレベルの高い仕事をしなさい』という時代になったとき、どう順応していくのか。そこが一つの課題になると思います。私も現在、大学のオンライン講座でAIやIoT、生成AI*2などを勉強しているのですが、まずは知ることからはじめなければ、業務に取り入れる価値があるのかどうかも判断できません」

新しい変化を我々には関係ない世界だと拒絶するのではなく、受け入れる体制も態勢も必要…。それは「世代間で対立しがちな人と人との関係性においても同様ではないか」と木谷社長はいいます。

「拒絶しない〝体質〟というと変ですけど、新世代の感性や感覚、価値観を、仮に理解できなくても『一旦は受け止める』という覚悟は持っておきたい。そこから何が生まれるのかは分かりませんが、可能性が広がることだけは間違いありませんから」■

大同生命サーベイ2022年7月度調査「健康経営」にご回答いただいた企業の中から、健康経営に取り組まれている企業さまにインタビューしました！

企業DATA

所在地	枚方市長尾家具町1-13-3
代表者	代表取締役 木谷健一郎
創業	1963年（昭和38年）
事業内容	各種コネクタ類（太陽光発電用等）、各種端子類（電源コード用等）、各種製造装置（結線省力化用自動機器、電源プラグ自動製造装置等）、各種電子部品の設計・製造・販売等
Webサイト	http://kitanidenki.co.jp/

*1：端子と電線部の接続部分に物理的な圧力を加え成形し、端子と電線を密着させて電気的に接続する技術。
*2：画像や文章、音声など、様々なコンテンツのサンプルデータからアウトプットを自動的に生成する人工知能。

■ 中小企業経営の現状分析に「大同生命サーベイ」をお役立てください！■

大同生命に所属する全国約3,700名の営業職員は、日々様々な業種・業態の中小企業経営者と触れ合っています。そこで見聞きするのは**現場のリアルな声**であり**時代の生の声**です。そのような声を共有し、経営の参考にしていただこうと開始した調査が「大同生命サーベイ」です。

■各月の「個別テーマ」と定例の「景況感調査」を公開しています！

調査結果は月次レポートとしてプレスリリースを発表し、Webサイト上にも公開。従業員数20名以下の企業を対象とした統計は貴重であることからも、各所からご好評をいただいております。どなたでもパソコンやスマートフォンの当社Webサイトからご覧いただけますので、どうぞご利用ください。

https://www.daido-life.co.jp/knowledge/survey/

※「健康経営®」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。

photo：Hirokazu Yoneda／写真提供：木谷電器株式会社（電源コード用端子）